



JAL FOUNDATION
公益財団法人JAL財団

事業計画書

2023 年度

公益財団法人JAL財団

目 次

I. 【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. JAL スカラシッププログラム | 2 |
| 2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業 | 2 |
| 3. 「空の日」中学生主要空港派遣事業 | 3 |
| 4. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム | 3 |

II. 【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を実現するための事業

- | | |
|-----------|---|
| 1. 大気観測事業 | 5 |
|-----------|---|

III. 広報活動 5

I.【公益目的事業1】

未来に続く豊かさを地球規模で考え自ら行動できる人財を育成する事業

1. JAL スカラシッププログラム

アジア・オセアニア地域の大学生・大学院生を日本へ招待し、日本人大学生とともに交流・研修や文化体験を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う人財を育成することを目的としている。昭和 50 年（1975 年）に日本航空が開始し、平成 2 年（1990 年）より当財団が引き継いで運営を継続しており、これまでに海外から参加した学生は 1,664 名を数え、様々な分野で活躍している。2022 年度は、初めてオンライン形式の「2022 オンライン JAL スカラシッププログラム」を実施し、様々な成果を得ることができた。2023 年度は、コロナ禍で 3 年間休止していた訪日旅行を再開するとともに、前年度に培ったオンラインプログラムのノウハウも活かし、来日前にオンラインで十分に事前研修を行う「ハイブリッド形式」でさらに充実したプログラムを計画している。

2. 世界こどもハイクコンテスト等俳句普及事業

世界の青少年へ俳句創作の楽しさを広め、豊かな感性を育み、また、世界でもっとも短い「詩」である俳句を生み出した日本文化や日本への理解の深化を図るために、「世界こどもハイクコンテスト」をはじめとする俳句普及事業を実施したい。

（1）「第18回世界こどもハイクコンテスト」の実施

2023 年春から 2024 年春にかけて、「かぞく」をテーマに「第 18 回世界こどもハイクコンテスト」（隔年開催）を日本と世界各地において開催。2024 年秋までに各国・地域での応募作品審査を行い、大賞、優秀賞の表彰を行う。また、大賞・優秀賞の作品を集めて、JAL 財団 WEB サイト内ハイクコンテスト専用サイトにて公開する。（これまで入賞作品を書籍『地球歳時記』として出版してきたが、社会のデジタル化に鑑み、Web サイトでのより充実した作品紹介に転換する。）本年度は新たに、各国・地域の大賞の中から金賞、銀賞、銅賞の表彰を行う。尚、参加地域数（2022 年度：49 地域）の増加に対応するため、応募作品の拡大と事務作業軽減に向けたシステム開発を検討する。

【参考】当ハイクコンテストについては、日本航空(株)が昭和 39 年(1964 年)から不定期に実施していた海外での俳句普及事業を、平成元年(1989 年/財団設立時)

より JAL 財団が引き継ぎ、子どもを対象とした定期開催コンテストに改めて継続実施している。なお、日本では五七五音の俳句に、海外では現地語による三行詩（ショートポエム）に、各々俳句にちなんだ情景を自らの手で描いた絵（俳画）を添えた作品を募っている。

（２）俳句関係行事への協賛

国内外で開催される青少年を対象とした俳句関係行事への協賛を通じて「世界こどもハイクコンテスト」への応募拡大や当財団事業への認知拡大を図る。

3. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

「空の日」（9 月 20 日）記念事業の一環である「空の日」中学生主要空港派遣事業は、次代を担う中学生に、航空や空港に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として、平成 4 年度（1992 年度）から実施されており、2019 年度までに 432 名の中学生の参加を得ている。2023 年度も国土交通省航空局、航空会社、空港関連企業、航空・空港関連公益法人等で構成される「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」の一員として、この「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営を行うこととする。

4. 地球人講座/インターンシップ等研修プログラム

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、次のプログラムを実施する。

（１）地球人講座

宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士等、第一線で活躍する講師による青少年向けの講演会「地球人講座」を開催する。2023 年度は、集合型講演、オンライン講演の国内外での開催を予定する。

（２）インターンシップ

国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を当財団に招聘し、就業機会を提供することにより、日本語能力の向上を促し、日本社会・文化への理解を深めてもらうためのインターンシップ事業を 4 年振りに再開する。

2023 年度は日越外交関係樹立 50 周年を記念して、ベトナムからの大学生 1 名の選出を計画しており、6 月から半年間の予定で当財団での研修を行う。

受け入れ期間中に実施予定の「2023JAL スカラシッププログラム」にも参画させ、アジア・オセアニアの国・地域の学生、日本人学生との交流により相互理解を深める機会を提供する。その他、航空事業への理解を深める場として、関係部署・グループ会社の協力による施設見学や、グループ以外の企業での研修機会も提供する。

なお、研修終了時までには独自のテーマについて日本語でまとめた研修成果レポートの作成および発表会を開催する。同レポートについてはホームページ上で公開することにより、広く一般に国際交流についての事例紹介を行う。

(3) その他研修プログラム

「JAL スカラシッププログラム」に協力を頂いている公益財団法人東日本鉄道文化財団が主催するアジア諸国鉄道会社の若手社員を対象とした研修に対して、日本航空(株)安全啓発センター他の視察プログラムを提供し、航空事業における安全確保への取り組みを紹介する。

Ⅱ.【公益目的事業2】

航空と環境の共存を目指すための調査・研究ならびにその成果を 実現するための事業

1. 大気観測事業

民間航空機に大気中の温室効果ガス濃度等を測定する装置を搭載して、その空間分布の観測を行い、その観測データを国内外の研究者に提供して地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムの解明に資すること、また、それにより地球環境に対する関心を高めることを目的とする当事業に、2023 年度も継続して取り組む。

【参考】この事業では、観測装置の開発、温室効果ガスの測定・研究を国立環境研究所と気象庁気象研究所、観測装置を航空機へ搭載するための当局承認の取得・機体改修等を日本航空(株)、観測装置の運用管理等を(株)ジャムコ、観測体制の充実やデータの公開方法等について意見交換、検討を行う「航空機による地球環境観測推進委員会(前記4者と国土交通省、環境省、地球環境に関する大学研究者等で構成)」の事務局を当財団が努め、共同で推進している。

Ⅲ. 広報活動

当財団の事業・活動内容を広く紹介し、さらなる理解、協力、支援を得るために、以下の取り組みを推進する。

- (1) ホームページの充実(更新頻度の向上、ユーザーインターフェースの見直し等)
- (2) 「プロジェクトレポート」(年度活動報告書)の配布方法見直しとデジタル化
- (3) 「世界こどもハイクコンテスト」の認知度向上
 - ① コンテスト関連サイトの内容充実による参加者、支援者の開拓
 - ② コンテスト入賞作品紹介ツール(バナー・ハガキ等)や「ハイクの作り方(How to make HAIKU)」(冊子・動画)の動画化、機内搭載検討等
 - ③ 俳句関連行事、施設への協賛、協賛・協力団体の開拓
- (4) 大気観測事業の告知強化

国立環境研究所、気象庁気象研究所、日本航空(株)、(株)ジャムコとの共同プロジェクトである大気観測 CONTRAIL プロジェクト活動の認知度向上を目的として、動画を制作し、機内搭載や JAL 財団ホームページ等で配信実施
- (5) 「地球人育成」の主役である若年層を意識した「財団パンフレット」の作成と活用
- (6) 財団の広報・宣伝活動の SNS 利用、その他デジタル化の推進

以 上